

念信寺だより

第66号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ町
町岸川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org



お寺の敷居を低くしよう

来て見てください！

今回の町おこしイベント「来て見てギヤラリー」では、門徒さんたちが多く出品して下さり、作品の質も高く、ぜひ、抹茶なども好評でした。訪問者だけでなく、出展・参加者にも喜んでもらえたのは何よりでした。

九、十月とイベントが続きましたが、収穫も多かったです。例えば秋彼岸法要での高座の落語を聞いてみると、その笑いは浄土真宗の教えに通じるものがあると気づかせてもらいました。

落語は人間の業の肯定だと言われます。浄土真宗の教えもそうです。人間の愚かしさを否定しない。

欲も多く、怒り、腹立ち、ねたみ、そねむところ多くひまなく、臨終にいたるまでとどまらず絶えることがない。その愚かさを生きるしかない自分であると教えられます。

仏から念仏が与えられている意味は、立派になれとは言われず、期待される救いの為のハードルがお前のままでよいと低いのだと思います。私は大地を忘れて空を飛び、偉くなった気分でした。念仏は私の都合・はからいによる善や悪の行為ではなく、仏による一方的な智慧と慈悲の実践だと教えられています。

お寺はできるだけ敷居を低くして、喜び、生きがいを感じられる場所になればよいと思います。

◆お寺でのイベント◆

「おらが町に来て見て

ギャラリー」に参加

「ご協力ありがとうございました！」

住職の念仏が通じたのでしようか？
両日とも晴天に恵まれました。「大きな
声に笑顔での接待」を訓示、手作り出
展品が多く、本堂の廊
下まではみ出し、農
産物の即売品は手
作りコンニャクか
ら蔵持山産の木炭ま
で幅広く備え、お昼時
にはぜんざい終了の声で追加し、即売
品の完売が続く、来訪者の皆様に大変
ご迷惑をかけ心苦しく思っております。
ご門徒様のご協力で私自身、より多く
の方との出会いをいただき、楽しく二
日間を終えさせていただきました、感謝いた
しております。



杖をつきながら坂道を登って来てく
ださる様子を上から眺め、「ありがとう、
ようこそ」と言いながら手を差し伸べ
お迎えしました。
お浄土が存在するならば、きつと導
いてくださるでしょう。
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏

実行委員長 吉田正和

【コメント】

盛会でした、次回も地区の皆さん頑
張ってください。(阿部正紀)



実行委員長殿、ユーモアたっぷりの
ご挨拶いつもありがとうございます。
ちなみにお念仏は私のはからいで申す
ものではありませんが、天気の良し悪
しと念仏とは、はからずもとてもよい
問題提起で考えさせられました。(笑)
住職



町長をはじめ、県議、町議さんたち
も訪問してくれました。



オテラクゴ

(9月29日夜7時半より)

秋彼岸お寺で落語会をしました

三者三様、十人十色、上方落語協会の桂一門と東京の落語協会、
橘家さんがそれぞれの持ち味を發揮したお話が聞ける落語会。抱腹
絶倒、笑いの渦に本堂が包まれました。楽しい秋の夜でした。来年
も開催予定です。お聞き逃しのないように！



桂 小梅



橘家蔵之助



桂 梅團治



ギャラリーに 参加して



開催にむけて

筆者はただギャラリー会場に居ただけの存在で、積極的に参加された方がたくさんいらっしゃる。その方たちを差し置いて一文を寄せるのも気が引けます。ギャラリーの準備はもう六月から始まっていたのです。驚きまし



開催日の十月二十九日、三十日は奇跡的といえるほど好天気めぐまれました。前日の二十八日は終日の雨、三十一日は今季最初の冷え込みに襲われたという記憶があります。これぞ仏様の功德といってしまえば簡単だろうが、仏様の功德ばかりではなさそうです。このギャラリーの成功に向けて尽力された住職および実行委員会役員の方々、展示品の出品の方々、関係者皆様方の願いが通じたのだと考える方が人間らしくて合理的だと思います。

ギャラリーについて

この念信寺ギャラリーは実は旧犀川町全域で開催される「おらが町に来てみてギャラリー」の一環として開催されるもので、このギャラリーはもう十回、つまり十四年間も行われている由緒のある催し。念信寺は今初めて参加するもので、成功に向けての関

者の意気込みは相当のものだったと思われ

ギャラリーの内容



さて、念信寺ギャラリーについて内容は大変豊富だったと思います。出品展示者は三十一名を数えた。日頃の丹精を込めて作られた農産品を展示・販売される方、長年のうんちくを重ねた手工芸品、収集品を展示・販売される方、はたまたギャラリー来訪者に対するおもてなしに尽力された方々。来訪者も腹が減っては戦にならないからね。まことに参加者多士

観てまわるだけに満足できない来訪者は写経によって心の落ち着きを求め、さらに茶室にて一服の茶を味わうという趣向まで準備されていた。面白いことに、お茶をたてる師匠さんは立派な和服を召した優美な女性を想像し勝ちであるが、なんとこのギャラリーでは武骨な手をした大束師匠。この人ゴルフの名手だよ。大変結構なお点前でした。実行委員長の苦心の人の選がしのばれるものです。

実行委員長によると、念信寺ギャラリーを訪れてくれた方は四百名に達するのではないかとのこと。内、スタンプラリーに参加された方は百六十一名だったそうです。遠くは博多、大分から参加された方も。その結果、お弁当、ぜんざい、お茶券、農産物はたちまち売り切れてしまったようです。



お抹茶を主にたててくれたのは、豊津の山口ミキ子さんです。お茶室のしつらえを手ぬかりなく前日からしてくださいました。ただ大束さんのお手前は確かに感動的でした。(住職)

ギャラリーを終えて

筆者は寺宝蔵持山伝来の仏画説明役を仰せつかったが、こんな田舎にこんな立派な寺院が存在するとは知らなかったと述懐された方、念信寺の由来を訊ねられた方は十名以上いたと思います。

なにもかも最初にしては大成功だったのではないのでしょうか。住職をはじめ役員の皆様方のご苦勞がしのべれます。おご苦勞さまでした。(阿部正紀 記)

お抹茶を主にたててくれたのは、豊津の山口ミキ子さんです。お茶室のしつらえを手ぬかりなく前日からしてくださいました。ただ大束さんのお手前は確かに感動的でした。(住職)

秋のお彼岸法要のレポート

日時 九月二十八日〜三十日
講師 伊藤 元 先生(小倉 徳蓮寺前住職)

「親鸞聖人の教えをたどる」

浄土真宗八百年の歴史での宗風(しきたり、決め事)の一つに「おつとめ」を一日に一回以上、出来れば朝にする。習慣化する。この文章をお読みの方はすでにご実行のことでしよう。習慣は第二の天性となるそうです。

二つ目の宗風は「聞法に志す」ことです。「念仏を申して仏法を聞く」「教えてもらって(開法)、救われる」。信じることは難しいことです。宗教は信じることから始めるのではなく「聞く」ことから始まってそして救われるのです。

伊藤先生は「この世は不条理なり」「雑会」と言って、この世は様々な出来事や人に会います。それらはまた自分で選べないのです。

「つらい目にあう人が不幸とは限りません」「楽な人生が幸せだろうか?」、受け取り方は人さまざまです。一つの事柄から知恵を張り巡らすことが出来ます。「幸福の量は感謝の量に等しい」、一方「幸福になると感謝することが減ってくる」のも人間です。八十一歳の伊藤先生が以前に先輩から「歳をとってきたから良かったと思えんかったら、長生きしても人生はつまらん」と言われた言葉が強く印象に残っていると話されました。聞法の意味を教えてくださいました。



先生は最後に「聞く」とは自我で聞くから忘れる。しかし、聞くだけでは何も変えられない自分に恥ずかしいところがあると気づくことが大事でないと指摘されました。

このところの法要には「雑会」等、同じ言葉が出てきます。何度も繰り返し聞くことで意味が理解でき、はたと気づく。「聞法」の言葉の意味と少し理解しました。

追文になりますが、二十九日夜のオテラクゴ(お寺で落語会)は五十人以上の参加で盛り上がりました。みなさまのご参加待っています。合掌

レポーターのおいさん



御正忌・報恩講のご案内



皆様には、時下ますますご清祥のことと存じます。はや、年の瀬も近くなり、報恩講の季節になりました。報恩講は親鸞聖人のご命日をご縁とする法座で、真宗門徒が最も大切にしてきた法要です。

左記の日程で厳修させていただきますので、ご参詣聴聞くださいますようお願い申し上げます。

記

日時	十一月二十一～二十四日		
日時	午前十時～	十二時～	午後一時～
二十一日(月)	法話二席	おとぎ	法話二席
二十二日(火)	法話二席	おとぎ	二伝鈔・法話
二十三日(水)	法話二席	おとぎ	法話二席
勸勞感謝の日			子ども報恩講
二十四日(木)			大連夜・講話
			講話

講師

会長 伯博 先生 二十一～二十二日
鹿児島市 善福寺住職、ビハール僧 滋賀医科大学非常勤講師

横尾 美智代 先生 二十三日
長崎在住 西九州大学教授、ネパールに関わり、ゼミ生を対象にネパールスタディツアーを毎年開催

野中 元 先生 二十三日夜
南阿蘇村在住 写真家、自然農法実践者

二〇一六年十一月 みやこ町犀川上高屋 妙見山 念信寺
☎0930-4-029

長倉先生のコメント

法話テーマ「響き合ういのち」
緩和ケアチームに参加している僧侶の話



私は病院で悩み苦しむ患者さんやそのご家族の相談を受けています。老・病・死から

最終的に逃げることはできませんが、力強く生き抜く教えが仏教なのです。この25年の間に会った方々のお話をまじえながら、浄土真宗の教えを皆様と共に味わい、「いのち」の重さ尊さについて考えたいと思います。そして医療と仏教が協働することの大切さを感じ取っていただけなら幸いです。

横尾先生のコメント

念信寺の皆さま、はじめまして。横尾美智代と申します。西九州大学健康栄養学部(佐賀県)で「公衆衛生学」の



教員をしています。この度、長倉伯博先生のご紹介で、ご住職の村上匡一先生との御縁を頂きました。私は長い間、ネパールでウ

イルス研究に従事してきました。ネパールには日本からは考えられないような生死があります。現地の人々と一緒に泣き、笑った中で、学ばせて頂いたことを皆さまにご紹介したいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

野中先生のコメント

今回報恩講に参加させていただき南阿蘇在住の野中 元と申します。26歳の時に南阿蘇に移住して田畑を耕して23年、写真家としても活動しています。自然と食の大切さを家族とともに築70年の竈と五右衛門風呂のある古民家で多くの方々に伝えてきました。



今年4月の熊本大地震で残念ながら住居は大きな被害をうけてしまいました。地域とともに復興の道を歩んでいます。予期せぬ出来事の中で感じたことと気付いたことを楽しくお話したいと思えます。

来年の法座予定

二〇一七年

春彼岸法要

三月二十五～二十七日
祖父江 佳乃 師 (名古屋市)

皆作永代経彼岸法要

六月二十四～二十六日
松月 博宣 師 (糸島市)

秋彼岸法要

九月二十三～二十五日
藤谷 知道 師(宇佐市)

9月24日(日)夜 落語会

御正忌・報恩講

十一月二十一～二十四日
未定

行事予定

念信寺同朋会

12月6日(火) 午後1時半 念信寺にて

四日市別院 団体参拝

12月15日(木) 午前8時半よりバス団体参拝
参加費四千元(お斎代含む) 申込 12月2日まで

お寺の催し・活動



ギャラリー全体打合 会10・16



納骨堂、業者、設計 七との打合10.23



犀川二十八日講、11/9念信寺にて

あとがき

行事や催しを行おうとすると、会議がやたらと増えてしまいます。台間をぬって予定を入れますが、お陰で寺報作製の時間がなくなってしまう、法座案内と一緒に配れなくなりました。すみません。

来て見てギャラリーは、面白くにぎやかに盛況のうちを終了しました。いつも静かな境内が軽やかな音楽に乗って、華やかでした。裏方のスタッフの皆さん、忙しかったけど明るく張り切っていました。

「除夜の鐘はありますか?」と聞いてきた北九州の青年、大晦日に来てくれたら嬉しいなあ。

来年に向けて、今年参加できなかった人、来年も参加する人、早速、創作活動・構想企画の開始をお願いします。お祭りのあとは、さあ今度は頭と身体を切り替えて御正忌報恩講です。

東別院 おとりこし
報恩講
2016年 12月12日(月)～16日(金)
開講式(おかみそり) 15・16日
法話講師
12日 吉武 法明 師(中津組)
13日 長久 年徳 師(大分市組)
14日 村上 匡一 師(京都組)
15日 此松 純爾 師(宇佐組)
16日 寺田 正和 師(田川組)